

Profile

東京都出身。2009年 東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士(教育学)。順天堂大学医学部助教、大阪大学大学院生命機能研究科助教を経て、12年より現職。行動観察、脳活動計測、情報工学など複数のアプローチを駆使して、人間の心の仕組みの解明を目指す。



無我夢中になれるものを 追い求めて

大阪大学 大学院生命機能研究科
准教授

中野珠実

Tamami Nakano



Q 研究テーマを一言でいうと?

A 人間の「まばたき」の意味とその応用

人間はおおよそ3秒に1回の割合で自発的に「まばたき」をしています。目を潤す目的なら、20秒に1回で十分です。では、何のために頻繁に「まばたき」をしているのか、その理由はまだ明らかになっていません。私はこれまでに、映画を見ている観客が同じ場面で同時に「まばたき」をすることや、普段の会話で話し手と聞き手の「まばたき」が同期することを発見してきました。さらに、「まばたき」をすることで脳の神経ネットワークの活動がリセットされることもわかってきました。日常生活でどんな時に「まばたき」をしているのか大規模に計測し、その情報をもとに人々の心の状態を調べることで、より快適な空間や、関心を持ちそうな情報を提供するシステムを構築できると考えています。



Q 研究者になったきっかけは?

A 卒業研究で体験した無我夢中の感覚が忘れられなくて。

中学・高校時代は、授業中に教科書や問題集を1人で勝手に解き進めてしまうような、生意気な生徒でした。大学ではラクロスに明け暮れていましたが、4年生の時に卒業研究で「まばたき」のテーマに出会い、それがとても面白く、研究にのめり込みました。卒業後は一般企業に就職したのですが、無我夢中で研究していた感覚が忘れられず、退職して大学院に戻り、研究者になりました。研究者の醍醐味は自分で思い付いた問いを自分自身で解き明かせることだと思います。思い通りにいかないこともあります。方向性を決めて突き進むので、私に合っていると感じています。



Q 休日の過ごし方は?

A 子供たちの活躍と、バラの成長を楽しみに。

ラグビーに夢中な息子の練習や試合に同行することが多いです。上の娘も中学生になり手が空いてきました。最近、子育ての合間に、家のベランダでバラのガーデニングをしています。始めて間もないですが、挿し木によって、バラをどんどん増やせるところが面白くて、試行錯誤しながら成長する姿を楽しんでいます。こうした試行錯誤は研究の世界に通じるものがあります。

出産、育児をしながら研究をしてきましたが、意外に自分で時間をコントロールできる職業なので、志のある女性や若者たちにも、ぜひ研究の世界に飛び込んでほしいと思います。

